

すべての子どもによりよい保育を！

全保連・活動推進ニュースNo.133

2023. 2. 9

全国保育団体連絡会／TEL:03-6265-3171／FAX:03-6265-3230／URL <https://www.hoiku-zenhoren.org/>

2. 5全国幹事会開催

語りあう場を広げよう、条件改善運動をすすめよう

2023年2月5日、全保連加盟団体の代表で構成する全国幹事会を開催しました。35都道府県4全国団体から82名が参加しました。Zoomでの参加が中心ですが、保育プラザには14名が参集、地域でも同じ会場に複数以上が集まって参加する例が増えてきました。

虐待・不適切対応どう考える？

会議では保育をめぐる情勢について、配置基準や保育士処遇など保育条件の改善を求める運動が広がりつつあること、一方で保育関係予算は来年度も改善点が乏しく、現場の自助努力に委ねる傾向が続いていることをおさえました。

そのなかで起きたのが虐待・不適切対応問題です。この問題について、園や地域での受けとめや対応についてどう考えるか、グループ討議も含め議論しました。論議の一部を紹介します。

- 虐待や不適切対応の背景にゆとりのない現場の実態がある。
- 保育条件の改善を求める運動を継続することが必要である。
- 保育士・職員の個人責任ではなく一緒に考える職場集団をつくることや、保護者にとっても居心地のいい場所にするなど、あたたかい関係、信頼し合える関係が求められている。
- 子どもの権利などを、全職員が学び続けることが重要。
- 安心して話せる場や機会をつくり、悩みや不安などを言葉にすること、聞くことが大切。

ギリギリの職員体制や業務内容増加、さらにここ3年のコロナ禍により、直接会って話す機会が極端に減少し、保育にも、連絡会活動・保育運動にも、影響が出てきています。職員同士や職員と保護者、保護者同士で話す場をつくり、一緒に考えるとりくみが大切であることを確認しました。

ちいなかでつながろう～安心して話せる、大人同士の関係をつくろう

『ちいさいなかま』は、各地の保育実践や小論などを通じて、子どもの権利や保育の役割、保育者と保護者の共同の大切さ等の視点を発信し続けています。大人同士の関係がづくりにくくなっている現状の中で、立場や世代を超えて保育・子育てを一緒に考えるための手がかりとして、ちいなかを活用し、一緒に考える仲間を広げようと確認しました。

各地でのちいなかのとくみ

- 保育ネットながさき：毎月、ちいなか読書会をZoomで開催。事務局で、司会者や読む記事を相談し準備している。個人で読むだけでなく、一緒に読んで交流することで学べる、と喜ばれている。
- 兵庫県保育所運動連絡会：県内のちいなか担当者会議を1時間に限定し毎月Zoomで開催。Zoomを使って、テーマ別のちいなか交流会も開催。参加者は10人前後と多くないが、話す場をつくっている。
- 高知県香美市：公立保育所で、ちいなかを使い毎月学習会を開催。非正規職員も含め、小人数で話すことで子どもの見方や保育について認識を共有したり、一人ひとりが話せる場になっている。

当面の活動について(2~5月頃)

国・自治体に向けた運動

- ①国に向けたとりくみ *詳細は、「よりよい保育を実行委員会」で確認後、お知らせします。
 - ・引き続き国会請願署名を広げ、地元選出の国会議員への要請にもとりくみましょう(～3月)
 - 3.1署名・国会行動を行います(参議院議員会館講堂)。 ※署名締切は2月25日。
 - ・国会請願署名と並行し、配置基準改善を中心としたWeb署名等を行います(2月下旬～5月頃)
 - 記者会見やシンポジウム等、社会的にアピールする機会も検討しています。

- ②自治体に向けたとりくみ
 - ・地方議会に対し、配置基準や処遇の改善について、国へ意見書をあげるよう求めましょう。
 - ・自治体との懇談等で、現場の実態や要望を伝えましょう。

ちいさいなかまの普及・拡大

- ①現在の読者数を減らさないことを当面の目標に、購読の呼びかけにとりくみましょう。
- ②ちいなかチラシ、見本誌を手渡し、一人から一人へ、声をかけましょう。



各地の活動より

●意見書採択、広がっています

地方議会での意見書採択が広がっています。愛知では、「もう1人保育士を」実行委員会の運動を広げつつ、意見書採択を求める活動にも取り組んでいます。蟹江町・安城市・春日井市などで意見書が採択されました。京都では、京都市が「保育士配置基準の抜本的な見直しを求める意見書」を採択しました。鳥取では、鳥取の保育を考える会が鳥取市議会に陳情し、「子どものために保育士配置基準の引き上げによる保育士増員を求める意見書の提出を求める陳情」が採択されました。意見書採択の動きは、月刊『保育情報』誌で連続して紹介していますのでご覧ください。※意見書採択の情報がありましたら、保育研究所までお知らせ下さい(電話03-6265-3173)。

●3年ぶりに金沢市にむけた署名運動にとりくみました(石川保育運動連絡会)

石川保育運動連絡会は、3年ぶりに金沢市に向けた署名にとりくみ、12月20日には課長との交渉を行って1,445筆を提出しました。懇談には、保護者も含めて8名が参加し、現場の実態を訴えました。市の保育幼稚園課課長は、本来は大変な仕事ではなく大切な仕事、働く人にとって魅力ある仕事であるようにしたい、国でも加算の検討をしております市長会等でも要望を出している、と回答しました。

●保護者交流会を開催しています(大阪保育運動連絡会)

大阪保育運動連絡会では、昨年より「保護者のつながりを広げる会」(保護者交流会)を開催しています。12月は、京都・たかつかさ保育園の保護者会のとりのくみの報告をきいて、保護者・保育者で交流しました。他園の保護者会の実践を聞くことで刺激を受けたり、Zoomでも交流することができることを実感する機会になっています。2月は、愛知・ふたつばし保育園保護者会の報告をもとに、第3回交流会を開催しました。

第55回合研集会にむけて

2022年12月11日に全国実行委員会を開催し、日程・会場等概要を確認しました。2月5日全国幹事会では、その後の合研常任実行委員会での議論を受けて、企画内容や当日の運営・参加組織、今後のとりくみ日程について報告されました。詳しくは「Let's合研」(合研ニュース)をご覧ください。